

日本酒学研究会 設立趣意書（案）

酒は人類最古の友である。

世界各地にさまざまな酒があるが、それらの中で日本酒はユニークな存在である。醸造酒でありながら、アルコール度数がもっとも高い。蒸留技術が伝わりながら、醸造で度数を高めようと複雑な工程を発達させたのは、なぜだろうか。もちろん味覚や風土もあるが、それらも含めて日本の社会・文化のありかたが根底にあらう。酒造りで培われた技術力、ものづくりは、単に科学技術面の発展によるものではなく、それらを求め実現してきた社会や文化のありかたにも関わる。

日本酒も日本食ブームに乗って世界に広がっているだけでなく、欧米で日本酒を造ろうとしている人々も現れている。この時代に、日本酒を研究し学ぶことは、アルコール飲料としてだけでなく、日本の社会や文化を研究し学ぶことでもある。

国際化しつつある日本酒について、醸造学や発酵学を含め、人文、社会、理工、農、そして医歯学等、さまざまな側面からの研究を「日本酒学」として統合することによって、新たな学問領域の発展を目指し、日本酒学研究会を設立するものである。

平成 31 年 3 月 8 日（予定）

発起人（五十音順）

赤田倫治（山口大学工学部）

朝倉俊成（新潟薬科大学薬学部）

阿部顕三（大阪大学大学院経済学研究科）

小笠原渉（長岡技術科学大学生物機能工学課程）

鎌谷かおる（立命館大学食マネジメント学部）

岸保行（新潟大学日本酒学センター）

小関卓也（山形大学農学部）

澤村明（新潟大学日本酒学センター）

塩澤修平（慶應義塾大学経済学部）

末吉邦（新潟大学日本酒学センター）

鈴木一史（新潟大学日本酒学センター）

鈴木秀顕（東京国際ビジネスカレッジ）

高久洋暁（新潟薬科大学応用生命科学部）

高橋均（新潟大学日本酒学センター）

都留康（一橋大学経済研究所）

二宮麻里（福岡大学商学部）

ニコラ・ボーメール（名古屋大学教養教育院）

水野雅史（神戸大学大学院農学研究科）

宮田安彦（大妻女子大学家政学部）

村山和恵（新潟青陵短期大学）